

熊本城下桜町を歩こう

～トランジットモール化構想～

はじめに

バスセンターや路面電車の電停などが存在し、市の交通拠点として熊本城下に位置する桜町、この地区では2015年の開業を目標とする再開発構想が進んでいます。

桜町とは

特徴

1. 自然や歴史が身近なまち
2. 特徴的な町並みに囲まれたまち
3. 劇場が点在する文化のまち
4. 熊本城と連携したイベントの会場となるまち
5. 世界中からの来熊者が行き交う交通と観光の拠点となるまち

熊本市都市景観条例（1989年制定）について以下のような重点的な景観指導が行われている。

1. ランドマークとしての熊本城への眺望の確保
2. 熊本城からの眺望の確保
3. 市街地と熊本城との間のゆとりある眺望の確保
4. 熊本城周辺における高さ指針



歴史

1588以前



加藤清正の白川・坪井川改修工事以前、花燈屋敷は1610年頃完成。

1850頃



熊本府時代、武家屋敷が益々城下町、西南戦争で市街焼失。

1880(明治13)



練兵場として利用、熊本鎮台を中心として軍施設が集まる。

1926(大正15)



路面電車が敷かれ、周辺には映画館がで、市街化が始まる。

1940(昭和15)



路面電車の路線が増え、繁華街が栄える。戦災復興事業。

1966(昭和41)



軍施設が消え、官公庁街に。県庁移転後に交通センター開業。

交通



① 交通センター

1日に6000台のバスが出入りする。乗り場は36バースあり、開業当時は東洋一と言われた。



② 交通センター裏

オフィスに囲まれた通り、バスの出入り口があるため狭いが交通量は多い。



③ 電車通り

路面電車が走る通り。歩道には、駐輪スペースがある。アーケード街と桜町との境界線となっている。



④ 銀座通りより

市電やバス、自動車タクシーなど多くの交通が合流する場所。信号を待つ自転車や歩行者も多い。

風景



1 シンボルロード

熊本城への眺望。交通量は中心地の割に少ない。桜町のシンボルロードであり、買い物客や旅行靴をもった人など多くの人が行き交う。



2 新市街より

金峰山への眺望。アーケードの端であり、歩行者空間の境目。路面電車を横切りオフィス街へと続く。



イベント時

中心地、熊本城でイベントが行われる際は、桜町も会場となることが多い。イベントによっては歩行者天国となり、多くの市民でにぎわう。



3 西銀座通りより

下通りとつながる西銀座通りを抜けると正面に交通センターが見える。右手の花畑公園は緑が生い茂り、暗い印象がある。

観光

1 熊本城



熊本城入場者数推移



熊本城門別入場者数 (H19)



熊本城は平成20年に築城400年を迎え、それに伴うイベントや本丸御殿の完成が手伝い、入場者数200万人を突破。全国の城郭入場者数は二条城（京都）や首里城（沖縄）を抑え1位となった。



2 辛島公園

曾段は若者が各々の趣味を満喫している。明るく開放的な空間であり、たくさんの人で賑わう。



3 花畑公園

もとは加藤清正の花畑屋敷の一部であった。当時の大楠は今も気持ちの良い木陰を作っている。



4 センターコート

多くの市民や観光客が行き交う交通センター前の広場。おてもやん像の前は待ち合わせに利用。



5 市民会館

市民ホールと国際交流会館に囲まれた、熊本城下の劇場空間。会議室や展示スペースもある。

問題点

- ・アーケード街に続く歩行者空間が分断されている
- ・歴史が活かされていない町並み
- ・熊本城への眺望が活かされていないシンボルロード
- ・利用しづらい交通センター
- ・駐輪場の不足

🌸 こんなまちにしたい！

- ① 歩行者中心のまち
- ② 城下町らしいまち
- ③ 眺望の生かされたまち
- ④ 使いやすい公共交通機関

🌸 動き出した桜町

- ・熊本城がある町として観光でまちを盛り上げている
- ・祭などの観光活動を積極的に行っている
- ・民間企業と住民、行政でもに再開発を考える場がある
- ・学生ならではの提案をまちづくりに活かしている

🌸 目指すべき桜町像

- ・観光客と市民がともに楽しめる
- ・憩いの場があり人々の交流がある町
- ・公共交通が発達し、どこへ行くにも便利な町
- ・歩行者にとって安全な町

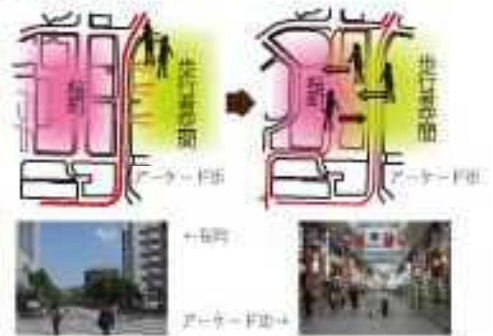
🌸 トランジットモールによる歩行者空間の提案

トランジットモールとは… 自家用車を排除し、公共交通のみが走る歩行者空間。



① アーケード街と桜町との分断の解消

熊本で最もにぎわいのあるアーケード街と桜町の間には路面電車の走る道路があり、人々の足はここで止まる。提案により桜町の魅力を引き出すことで、歩行者空間の拡大を図る。



② 熊本城下町の区画の大きさを再現

周辺に残る城下町の区画と比べ桜町の区画割りは大きい。そこで、城下町サイズの小さな区画割りに再編する。これにより歩行者が距離を感じずに疲れない町並みとする。



③ 熊本城への眺望の確保

シンボルロードは熊本城がアイストップとなる。ストリートパフォーマンスやショッピングを楽しむ人でにぎわう。人々の活動により街路と店が一体となる城下町らしい空間が広がる。



④ バスと路面電車の結節をよくする

トランジットモールとすることで、観光・歴史・商業・交通という桜町の個性が集まる。ここで機能性が高まることにより、快適な歩行者空間が生まれる。



⑤ 新しい駐輪場の設置

駐輪場を分散することで自転車の利用者が簡単かつ気持ちよく使える。これにより交通マナーが改善し、歩行者にとって歩きやすい歩道を確保できる。



トランジットモール



デザインコンセプト

線形：加藤清正が熊本城周辺の治水工事を行う以前の桜町に流れていた白川をイメージ

- ・線形を曲げることでより多くの面ができ、多方向への眺望が生まれる
- ・広場や店で過ごす人々の姿が周囲の人々に影響を与え、アクティビティが連鎖し、回遊性が増す



小さなたまり

シンボルロードの流れるような線形は多方向への眺望と様々な“たまり”の空間を生み出す。それらは花畑公園、劇場などの要素とリンクしており、ストリートパフォーマンスやイベント、待ち合わせなどのアクティビティが生まれる。



一体的な広場

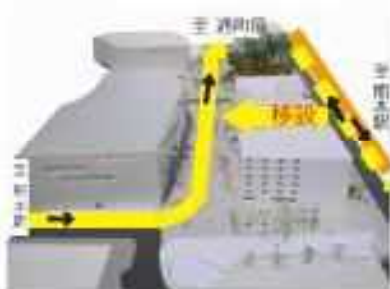
様々な方向へと人々が行き交うこの場所は歩行者の交差点となる。目の前には住民に親しまれている花畑公園があり、住民と桜町を訪れた人との交流が生まれる。



連携する劇場

産業文化会館に代わる2000席規模のホールを置き、市民ホール・国際交流会館とともに劇場空間をつくる。既存の劇場の曲線を活かした形状、熊本城との一体感を意識したデザインとする。

交通



路面電車の路線を移設

熊本駅から中心市街地へ向かう電車をシンボルロードへ移設し、車内から熊本城の眺めを楽しめるようにする。



駐輪スペースの確保

不足分の駐輪場を増やし、雑然とした駐輪場を芝生や木を植えた公園のようにすることで都市景観の一つとする。



バスと路面電車の結節

バスを降りると広場の先に電停が見え、歩行者は距離を感じずに乗換ができる。広場があることで安全性を保ちながら結節が改善される。



風景

幸島公園より



デパートの壁面に変化を与え、シンボルロードに開いた建物としにぎわいを創出。また周辺の建物の高さを抑え熊本城への眺望を確保する。

西銀座通りより



シンボルロードへの眺望を遮っていた建物を低くしセットバックする。また電停を新市街から見える位置にし歩行者を誘導する。

新市街より



橋の配置を変え公園を通り抜けやすくすることで、西銀座通りから交通センターへの連続性を向上させる。

観光



桜町の主な年間行事

3月	園遊会：坪井川での曳船会 桜町さくらまつり
7月	熊本城城下町精霊流し
9月	藤崎宮秋期例大祭
10月	みずあかり

イベント時のシンボルロード

10月に行われる「みずあかり」では夜の熊本城下に竹灯籠の光が輝く。歩行者と踏面電車の空間となったシンボルロードにも何百ものろうそくが灯され、市民と観光客がともに楽しむ空間を演出する。



まとめ

今回、住民や行政の方など、多くの人との意見交換を経てこのような提案に至った。私たちが訪ねてみたい桜町、住民の方が望む桜町は、市民と観光客がともに安全で楽しくすごせるまちである。シンボルロードがトランジットモールになり、桜町が多くの人でにぎわうことにより、熊本城と中心市街地の回遊性が生まれ、熊本のまち全体の活性化につながる。